

蟹のしょうばい

新美南吉

青空文庫

蟹^{かに}がいろいろ考えたあげく、とこやをはじめました。蟹^{かに}の考えとしてはおおできでありました。

ところで、蟹^{かに}は、

「とこやというしうばいは、たいへんひまなものだな。」

と思いました。と申^{もう}しますのは、ひとりもお客さんがこないからであります。

そこで、蟹^{かに}のとこやさんは、はさみをもつて海つぱたにやっていきました。そこにはたこがひるねをしていました。

「もしもし、たこさん。」

と蟹^{かに}はよびかけました。

たこはめをさまして、

「なんだ。」

といいました。

「とこやですが、ごようはありませんか。」

「よくごらんよ。わたしの頭に毛があるかどうか。」

蟹^{かに}はこの頭をよくみました。なるほど毛はひとすじもなく、つるんこでありました。いくら蟹^{かに}がじょうずなとこやでも、毛のない頭をかることはできません。

蟹^{かに}は、そこで、山へやっていきました。山にはたぬきがひるねをしていました。

「もしもし、たぬきさん。」

たぬきはめをさまして、

「なんだ。」

といました。

「とこやですがごようはありませんか。」

たぬきは、いたずらがすきなものですから、よくないことを考えました。

「よろしい、かつてもらおう。ところで、ひとつやくそくしてくれなきやいけない。とい

うのは、わたしのあとで、わたしのお父さんの毛もかつてもらいたいのさ。」

「へい、おやすいことです。」

そこで、蟹^{かに}のうでをふるうときがきました。

ちよつきん、ちよつきん、ちよつきん。

ところが、蟹^{かに}というものは、あまり大きなものではありません。蟹^{かに}とくらべたら、たぬ

きはとんでもなく大きなものであります。その上たぬきというものは、からだじゅうが毛むくじやらであります。ですから仕事はなかなかはかどりません。蟹は口から泡をふいていっしょうけんめいはさみをつかいました。そして三日かかって、やつとのこと仕事はおわりました。

「じゃ、やくそくだから、わたしのお父さんの毛もかってくれたまえ。」

「お父さんというのは、どのくらい大きなかたですか。」

「あの山くらいあるかね。」

蟹はめんくらいいました。そんなに大きくては、とてもじぶんひとりでは、まにあわぬと思います。

そこで蟹は、じぶんの子どもたちをみなとこやにしました。子どもばかりか、まごもひこも、うまれてくる蟹はみなとこやにしました。

それでわたくしたちが道ばたにみうける、ほんに小さな蟹でさえも、ちゃんとはさみをもっています。

青空文庫情報

底本：「いんぎつね 新美南吉童話作品集」てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：「校定 新美南吉全集」大日本図書

入力：めいこ

校正：もりみつじゅんじ

2002年12月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

蟹のしょうばい

新美南吉

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>